

こたえとかいせつ

Q 1 1192年（または1185年）に、武士による政権である鎌倉幕府を開いた人物は誰でしょう？

こたえ 2 源頼朝

源頼朝（みなもとのよりとも）は、平氏を倒した後、鎌倉に拠点を置き、武士による初めての本格的な政権である鎌倉幕府を開きました。朝廷から征夷大将軍に任命され、全国に御家人（家来となった武士）をまとめ、守護（国内の軍事・警察を担当）と地頭（荘園や公領の管理・年貢の徴収を担当）を置いて支配力を強めました。平清盛は平安時代末期に力を持った武士、足利尊氏は後の室町幕府を開いた人物です。

Q 2 鎌倉時代に、元の皇帝フビライ・ハンが日本に二度にわたって大軍を送ってきた出来事を何というでしょう？

こたえ 2 元寇（蒙古襲来）

元寇（げんこう）または蒙古襲来（もうこしゅうらい）は、13世紀後半に、当時中国大陸を支配していたモンゴル帝国（元）が日本を従えようとして、二度にわたって大軍を送ってきた出来事です。一度目を「文永の役」、二度目を「弘安の役」といいます。日本の武士たちは、執権・北条時宗のもとで激しく抵抗し、また「神風」と呼ばれる暴風雨にも助けられて、元軍を退けました。

Q 3 室町幕府の三代将軍で、京都の北山に金閣を建てた人物は誰でしょう？

こたえ 1 足利義満

足利義満（あしかがよしみつ）は、室町幕府の三代将軍で、幕府の力を最も強めた人物です。彼は南北朝の合一を実現し、中国（明）との貿易（勘合貿易）を始めるなど、政治的に大きな功績を残しました。また、文化面では、京都の北山に豪華な山荘として金閣（正式名称は鹿苑寺金閣）を建てました。この時代の文化を北山文化といえます。足利義満は八代将軍で銀閣を建て、足利尊氏は室町幕府の初代将軍です。

Q 4 室町時代の後半に京都を中心に約11年間も続いた大きな戦乱で、戦国時代のきっかけとなったものは何でしょう？

こたえ 2 応仁の乱

応仁の乱（おうにんのらん）は、1467年から1477年まで続いた、将軍家の跡継ぎ問題や有力な守護大名（細川氏と山名氏）の対立などが原因で起こった大きな内乱です。主戦場となった京都は焼け野原となり、幕府の権威は大きく失われました。この乱をきっかけに、全国各地で実力のある者が力のない者を倒して領地を奪い合う「下剋上」の風潮が広がり、約100年間続く戦国時代へと突入していくことになりました。

Q 5 戦国時代に、「楽市・楽座」という政策を行い、商工業の発展を促した武将は誰でしょう？

こたえ 3 織田信長

織田信長は、戦国時代の武将で、天下統一を目指した人物です。彼は、既得権益を持つ座を解散させ、誰でも自由に商売ができるようにする「楽市・楽座」という政策を城下町などで実施しました。これにより、市場での税が免除されたり、商売の制限がなくなったりしたため、商工業が活発になり、城下町は大きく発展しました。この政策は、経済を発展させて国を豊かにし、軍事力を強化する狙いもありました。

Q 6 織田信長の後を継ぎ、検地や刀狩などの政策を行って全国統一をほぼ成し遂げた人物は誰でしょう？

こたえ 1 豊臣秀吉

豊臣秀吉は、もとは農民の出身でしたが、織田信長に仕えて才能を発揮し、信長の死後、その事業を引き継いで天下統一をほぼ完成させました。彼は、全国の田畑の広さや収穫量などを統一した基準で調査する「太閤検地」や、農民から武器を取り上げる「刀狩」などの重要な政策を行いました。これにより、兵農分離（武士と農民の身分をはっきり分けること）を進め、安定した支配体制を築こうとしました。

Q 7 1600年に起こった、徳川家康が石田三成ら豊臣方の勢力を破り、天下分け目となった戦いを何というでしょう？

こたえ 3 関ヶ原の戦い

関ヶ原の戦いは、1600年に美濃国関ヶ原で行われた、日本の歴史上でも最大規模の野戦の一つです。豊臣秀吉の死後、次に天下を握ろうとする徳川家康を中心とする東軍と、豊臣家を守ろうとする石田三成を中心とする西軍が激突しました。この戦いで家康率いる東軍が勝利したことにより、徳川家康が全国の支配権を確立し、江戸幕府を開く決定的なきっかけとなりました。「天下分け目の戦い」とも呼ばれます。

Q 8 江戸幕府が、キリスト教を禁止し、外国との貿易や人の行き来を厳しく制限した政策を何というでしょう？

こたえ 1 鎖国

鎖国は、江戸幕府が約200年間にわたって行った対外政策です。キリスト教の布教が幕府の支配の妨げになると考えたことや、貿易の利益を幕府が独占することなどを目的に、日本人の海外渡航と帰国を禁止し、来航する外国船を制限しました。ただし、完全に国を閉ざしたわけではなく、オランダと中国（清）とは長崎の出島で、朝鮮や琉球王国とは特定のルートで、限定的に貿易や外交を行っていました。

Q 9 江戸時代に、大名が一年おきに江戸と自分の領地を行き来しなければならなかった制度を何というでしょう？

こたえ 3 参勤交代

参勤交代は、江戸幕府が全国の名目を統制するために定めた重要な制度です。原則として、すべての大名は一年ごとに江戸と自分の領国を行き来し、妻子は人質として江戸に住まわせなければならませんでした。大名にとっては、江戸と領国の往復や江戸での生活に莫大な費用がかかるため、経済的に大きな負担となり、幕府に反抗する力を弱める効果がありました。一方で、多くの人が移動することで、街道や宿場町が整備され、文化の交流が促されるという側面もありました。

Q 10 江戸時代の町人文化を代表する、当時の風景や役者、美人などを描いた多色刷りの版画を何というでしょう？

こたえ 2 浮世絵

浮世絵は、江戸時代に発達した、庶民の日常生活や風俗を描いた絵画のジャンルで、特に多色刷りの木版画が広く普及しました。当時の人気歌舞伎役者、美しい女性（美人画）、名所旧跡の風景（風景画）、相撲取りなどが題材となり、安価で手に入ったため、庶民の間で大変な人気を集めました。葛飾北斎の「富嶽三十六景」や歌川広重の「東海道五十三次」などが有名で、後のヨーロッパの芸術にも影響を与えました。

Q 11 1853年、浦賀（現在の神奈川県横浜賀市）に来航し、日本の開国を要求したアメリカの使節は誰でしょう？

こたえ 2 ペリー

マシュー・ペリーは、アメリカ東インド艦隊の司令長官で、1853年に軍艦4隻（黒船と呼ばれました）を率いて日本の浦賀に来航しました。彼はアメリカ大統領からの国書を幕府に渡し、日本の開国と通商を強く要求しました。翌1854年に再び来航し、幕府は日米和親条約を結び、下田と函館の二港を開港しました。このペリー来航は、長く続いた鎖国政策を終わらせ、日本が近代化へと向かう大きなきっかけとなりました。

Q 12 江戸幕府を倒し、天皇を中心とする新しい政府を作ろうとした、明治時代の大きな政治改革を何というでしょう？

こたえ 3 明治維新

明治維新は、19世紀後半に日本で起こった、江戸幕府の終わりから明治新政府の成立にかけての一連の改革運動です。ペリー来航以降、国内では幕府に対する不満が高まり、薩摩藩や長州藩などを中心に、幕府を倒して天皇中心の新しい国づくりを目指す動きが強まりました。1867年の大政奉還、1868年の王政復古の号令などを経て新政府が樹立され、身分制度の廃止、廃藩置県、学制、徴兵令など、政治・経済・社会・文化のあらゆる面で近代化を進める改革が行われました。

Q 13 明治政府が、近代的な産業を育て、国の経済力や軍事力を高めようとした政策のスローガンは何でしょう？

こたえ 2 富国強兵

富国強兵は、明治政府が掲げた国の基本方針を示すスローガンです。「国を豊かにし（富国）、軍隊を強くする（強兵）」という意味で、欧米列強に対抗できる近代的な国家を作ろうとしました。この目標を達成するために、政府は「殖産興業」政策を進めて官営工場を作ったり、近代的な産業を育成したりしました。また、徴兵令によって国民皆兵の軍隊を創設し、軍備を増強しました。「文明開化」は、西洋の文化や制度を取り入れて生活様式などを近代化しようとする風潮を指します。

Q 14 国民が政治に参加する権利を求め、国会の開設などを要求した、明治時代の自由民権運動の中心となった人物の一人で、初代内閣総理大臣にもなったのは誰でしょう？

こたえ 3 伊藤博文

伊藤博文は、長州藩出身の政治家で、明治維新で活躍し、明治政府の中心人物となりました。彼はヨーロッパに渡って憲法を調査し、日本の初代内閣総理大臣（1885年）となって内閣制度を創設しました。また、大日本帝国憲法の起草にも中心的な役割を果たしました。板垣退助や大隈重信は自由民権運動の指導者として有名ですが、初代の内閣総理大臣は伊藤博文です。

Q 15 1894年から翌年にかけて、日本と清（当時の中国）との間で行われた戦争を何というでしょう？

こたえ 2 日清戦争

日清戦争は、朝鮮半島の支配権などをめぐって日本と清国との間で行われた戦争です。近代的な軍備を整えた日本軍が勝利し、下関条約が結ばれました。この条約で、清は朝鮮の独立を認め、遼東半島、台湾、澎湖諸島などを日本に譲り、多額の賠償金を支払うことになりました。しかし、遼東半島については、ロシア、ドイツ、フランスの三国干渉により、日本は清に返還することになりました。この戦争の勝利により、日本は国際的な地位を高めました。同時にアジアにおける列強との対立を深めることにもなりました。